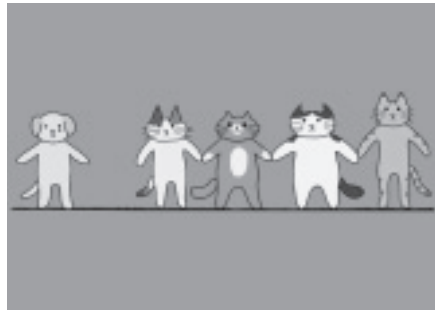


昨年、岩手県で自殺した生徒のいじめが学校の聞き取りで把握できていなかったことから、内容をより細かくして文部科学省の再調査が行われました。

また、これまで不登校のきっかけとなった理由を尋ねていませんでしたが、文部科学省では、今後、「いじめ」「学業の不振」などの要因を分けて聞き取り、より詳しい実態がわかるよう見直すとのことです。



いじめについて

いじめは、この数年間で、定義がずいぶん変わってきました。

身体を叩かれたり、攻撃だけでなく、仲間外れや無視、悪口なども、対象となった子どもが心身の苦痛を感じているものは、いじめになります。

平成25年の「いじめ防止対策推進法」以降認知件数が増えています。定義の変化も関係

しているとの説明でしたが不安は残りました。

また、ささいな喧嘩も入っているとのことですが、埼玉県の調査結果では、小学校で93・1%が解決しているとの報告もありました。

不登校について

病気や経済的な理由によるものを除いて、連続、又は継続して30日以上欠席を不登校と定義しています。友人関係、生活リズムの

乱れ、勉強がわからな
いなどをきっかけに学
校に行かなくなる子ども
たちが増えているよ
うです。

自己肯定感が持てな
い、将来への夢が描け
ない、また、友だちと
のコミュニケーション
が苦手な子どもたち。

子どもたちの壁は、
家族や地域のつながり
の希薄化といった、生
活環境が変わってきた
ことも要因とのことだ

「報告」 まちづくり市民講座

いじめと不登校の

再調査について

開催日：平成28年6月23日

講師：鶴ヶ島市教育委員会

指導主事お二人

会場：くらぶメゾン鶴ヶ島

した。

子どもたちが楽しく学べる学校

学校の環境づくりとして学級活動や道徳教育の充実、スクールカウンセラーや巡回相談員を配置しています。関係機関の連携の他、教育センターでは相談の窓口と教育支援教室「アペルト」を開設しています。

参加者の感想

・アンケートが学校単位で作成されている事、アンケートの実施を保護者に知らせていない事が疑問です。また、聞き方が画一的で答えづらいと感じます。

・（親は）友だちはつくってあげられない。昔は、みんなが同じ事ができなくてもいっしょに遊べたのに、今は、いじめにつながっているように思える。

・その他、特別支援学級と通級や学びあいの授業についての質問がありました。

人は一人ひとり違ってあたりまえです。でも、わかっていても自分と違う考えや行動をすんなり認められないのは、大人も子どもも同じではないかと感じました。

*鶴ヶ島市の小中学校には全校に特別支援学級があります。通級は栄小と第一小、富士見中にあります。

みんなの声と参加が まちをつくる！

私たちは、暮らしの中で気づいた課題を調査し学び合い、市政に提案しています。みなさんの声を、市民ネットワーク鶴ヶ島にお寄せください。また、ネット通信を配布してくださる方を募集中です。

■お問合せ■

tsurunetorg@gmail.com